

# あなたの田んぼは

## だいじょうぶですか？

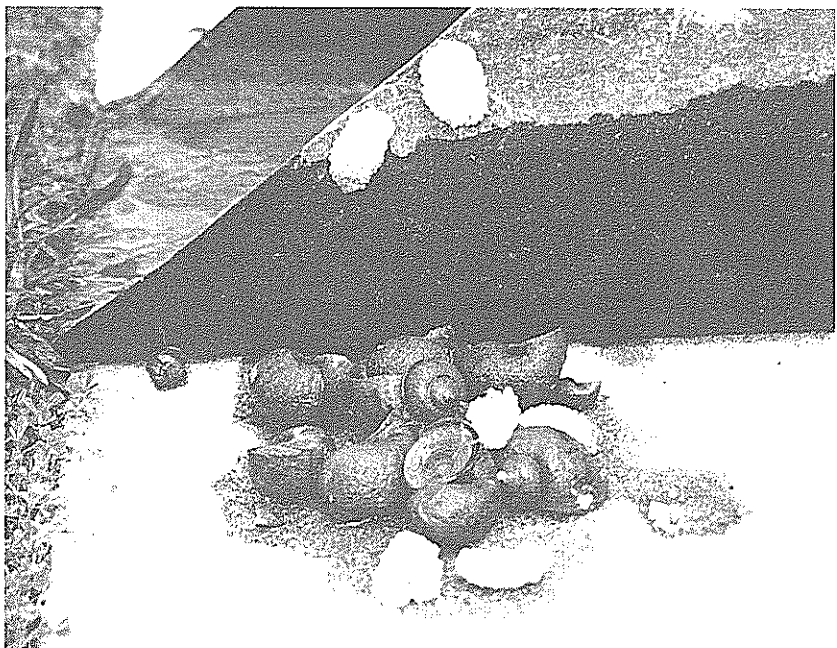
### 繁殖するジャンボタニシ

最近、スクミリンゴガイ(通称・ジャンボタニシ)による稲を中心とした農作物への被害が、市内の水田等に広がっています。  
この貝の生態と防除方法をお知らせしますので、見つけたらすぐに防除に努めてください。

#### 地域ぐるみの対応が不可欠

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)は、昭和五十五年ころから食用目的でアルゼンチンやコンゴから日本に輸入され、養殖が行われてきました。  
市内でも昭和五十八年ころ養殖を行っていましたが、日本人の食味に合わなかったのかあまり食されず、その後養殖は中止されましたが、一部逃げて野生化したものが稲

を中心とした農作物に被害を与えるようになりました。  
ジャンボタニシの食害は、昭和五十九年ころから九州地方で被害が開始、その年に国の有害動物に指定され、輸入を禁止されています。南国市では昭和六十年ころに被害を確認。現在では浜改田を中心に十市、長岡、岡豊地区にも被害が広がっています。  
この貝は非常に繁殖力が旺盛で、完全な防除方法がないので、個人的に対応するのはなく、地域全体が一つになって対応することが必要です。



水路壁に産みつけられた卵塊

### ジャンボ

#### タニシの生態

ほど短くなるが、だいたい十日から二十日くらい。ふ化した幼貝はすぐ水面に落下し五日から六十日で成貝となり産卵するようになる。

#### ▼産卵

日没後、水上にはい上がり、コンクリート壁、畦畔雑草、稲などにピンク色の卵塊を四月から十一月上旬まで産卵。

#### ▼ふ化・発育

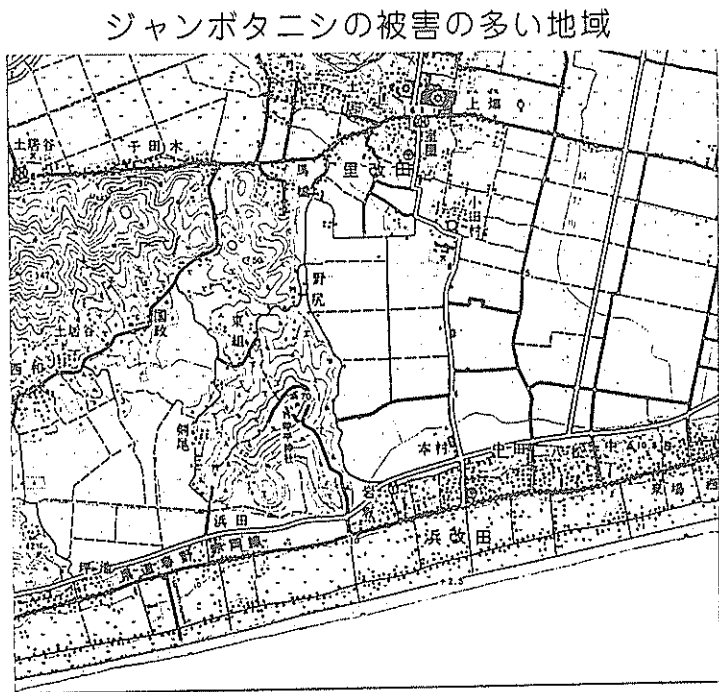
卵の期間は気温が高くなる

#### ▼越冬

十四度以下では活動を停止し、水田等の土中や用排水路等で越冬します。土中での越冬は殻が土に隠れる程度が最も多く、地下一〇センチくらいまで。

#### 防除方法

- ①一週間に一度、水田、水路を見回り、赤色の卵塊は水中に落とし、黒や白っぽい卵塊は押しつぶすなどして完全に殺卵します。
  - ②田植後二週間くらいはできるだけ浅水にします。
  - ③水田の取水口および排水口に目の細かい網をはり、水田への侵入を防止します。
  - ④発生水田では、貝の越冬密度を下げるため冬期に田を乾燥させ、耕うんを行ってください。
  - ⑤本田初期にキタジンプ粒剤を一〇ヶ当たり五ヶ散布することにより、食害軽減効果があります。
  - ⑥水田および水路の貝の捕殺作業を行います。なお、この目を探取するときは必ずゴム手袋等をしてください。また、作業終了後は必ずせっけんを手を洗ってください。
- ※個人で行うのではなく、地域全体で防除に努めるとより効果的です。



青少年に有害図書・ビデオを『見せない、売らない、買わせない』ようにしましょう。

【南国市青少年育成センター】  
【南国市補導委員会】  
【南国警察署】

#### 人事異動

選挙管理委員会事務局長 野村道俊(総務課課長補佐兼総務係長) ▼ 税務課課長補佐 兼資産課係長 松岡龍男(選挙管理委員会事務局) ▼ 総務課課長補佐兼職員係長 土居信幸(総務課職員係長) ▼ 総務課課長補佐 岸本敏弘(税務課資産課係長)